

高松 玉麗（たかまつ・ぎょくれい）

1、プロフィール

俳人。木村横斜を選者として松濤社を興し、俳誌「寂光」への道を拓く。これと並行して、『青森県句集』を昭和5年から出版し続けるなど県俳壇に尽力した。

<生没>

1903(明治36)年11月30日～1995(平成7)年11月19日

<代表作>

玉麗句集『いちじく』『定本高松玉麗句集』『幽寂求心』

<青森との関わり>

青森市生まれ。第一回青森県文化賞受賞。

2、作家解説

本名は喜久蔵。明治43年、青森市橋本小学校入学。大正8年青森商業学校卒業。大正12年東奥俳壇に投句、選者木村横斜に五十句、百句の斧正を乞う。

大正13年松濤社創立、顧問に福士松濤、大坂祇蕉、同人対馬桜桃子、相馬兔二ら。

14年同社一周年記念として句集『おぼろ』を刊行。翌年、第二句集『海丹』刊行。昭和2年第三句集『茄子籠』を刊行(横斜の俳句を主軸に、横斜を師表と仰ぐ県下俳人十数人の句を収める)。3年第四句集『ゆきのした』を刊行(横斜晩年の句、文章を軸に、同人の作品を収める)。

5年俳誌「寂光」創刊。『青森県句集』第一集刊行。

14年『青森県句集』第九集に、郷土性を探求した俳句「寂光郷土」を特集出版。

22年『青森県句集』第十一集。23年『青森県句集』第十二集。

32年玉麗句集『いちじく』刊行(松濤社三十周年を記念する有志の企画)。

34年青森県俳句懇話会より俳句功労者として表彰される。第一回青森県文化賞を受賞。37年青森県褒賞受賞。

39年『青森県句集』第二十五集出版。本集を記念し、『青森県歳時記句集』刊行(第十一集から第二十集までの作品から、〈郷土俳句〉八百句を選したもの)。

42年「寂光」四百号記念特集号。

44年『定本高松玉麗句集』刊行。

3、資料紹介

○『幽寂求心』

図書

1979(昭和54)年9月10日

195mm×135mm

急逝した妻及び闘病生活の後他界した長女への鎮魂句集。昭和50年以後の句の多くが亡き妻の供養の句で、最愛の妻を失った悲しみ、落胆の思いが切々と伝わる。なお、句集の最後に随筆3題を載せるが、「緑のリボン」は亡妻への思いを綴ったもの。